

# ST 未来創造 II

---

金融教育2 お金の本質



# 「お金とは？」

「お金」とは何か？

「お金のことを口にするには品がない」と言う人もいます。

お金は必要不可欠なものですが、お金の取り扱い説明書は存在しません。

お金は生きていくための「道具」に過ぎないので、「包丁」のようにうまく使えば素晴らしい料理を作れますが、使い方を誤ると凶器にもなります。

# 「お金とは？」

大切なことは、「お金をどう使うか」、「お金とどうつきあっていけるか」です

お金のことを考えることは、人生について考えることにもなります。社会のしくみも理解できるようになります。

お金や社会のことを知って、幸せな生き方ができるようになっていきましょう。

そのために、「お金の本質」について考えてみよう！

# 「問い」

「お金」が持つ役割を3つあげてみよう。

# 「お金」の3つの役割；回答例

- 1 欲しいものと交換できる (交換)
- 2 モノの価値を「金額」として可視化する(尺度)
- 3 価値を保存できる (保存)
- (4 広い範囲で交流が促進され社会が活発化する)

# 「幸せ」と「人生評価(満足度)」の違い

「幸せ」は、おもに自分で感じるもの

「人生評価(満足度)」は他者と比較して判断する傾向が強いです。

あなたの「幸福度」と「人生評価(満足度)」をロイロのアンケートカードで提出してください。

# あなたの「幸福度」と「人生評価(満足度)」(2年5組用)

出題者 丸木克朗  
質問数 2

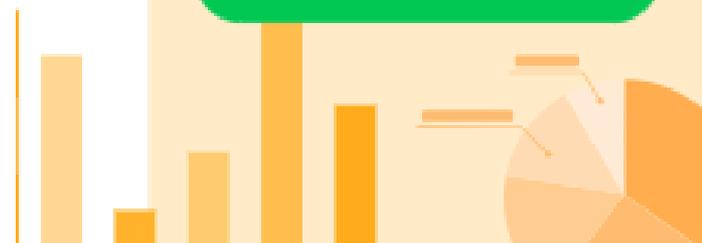
[? 使い方はこちら](#)

全員で回答

編集

回答

結果



# 「問い」

いろいろと考えて、あらためて問います。

1 あなたは、年収いくら欲しいですか？

2 年収と、人生の幸福度と満足度はどんな関係になると思いますか？

年収が高ければ高いほど、人生に対する幸福度や満足度は高くなると思いますか？

## 大金を稼いだのに破産…米スポーツ選手の“異常”な金銭感覚

2009年にスポーツ・イラストレイテッド誌が伝えたところによると、NBAプレイヤーの60%が引退から5年以内に自己破産するという。また、NFL選手の78%は引退後2年を持たずに破産するか、経済的に困窮する。

統計によると、NFLプレイヤーは平均3.5年のキャリアを過ごし、年俸約190万ドル（約2億円）、生涯報酬は665万ドル（約7億円）。NBA選手は平均4.8年のキャリアで1年約550万ドル（約6億円）を稼ぎ、生涯報酬は約2640万ドル（約29億円）強に及ぶ。一般人には想像もつかない巨額を稼ぎながら、多くのアスリートたちはなぜ破産の末路を辿るのか。

一般的な散財の原因はやはり浪費、離婚、投資の失敗など。中でも特筆されるのは、“アメリカンドリーム”を叶えた選手たちの遣いっぷりの激しさである。

「ヨット、マンションに加え、何台かの車を買った。それだけで700万ドル（約7億7000万円）は使ったな。つまり、俺は稼いだ金をすべて吐き出したんだ。また、家族や友人たちも平気で金をせがんでくる」キース・マツキャンツ（NFLプレイヤー）

「ジュエリーだけで100万ドル（約1億1000万円）は使ったと思う」アンドレ・リソン（NFLプレイヤー）

これらのコメントにある通り、プロスポーツ選手としてのキャリアの短さを自覚せず、まるで“宵越しの金は持たない”とでも言うように派手な散財を続ける選手は今も昔も珍しくない。

## 宝くじ高額当選者の生活とは？その後の悲惨な人生について

宝くじで高額当選をした人は、不幸になる。幸せになることはない。そんな話を聞いたことがある人は多いと思うが、その内容は概ね、贅沢が癖になり、すぐにお金を使い切ってしまい人生が破綻した、という類の話ではないだろうか。

そしてそんな都市伝説まがいの話を聞くたびに、多くの人はこちら思うはずだ。

「なんでそんなバカなことをしたんだらう。自分なら、少しずつ大事に使う。決して浪費はしない。」

と。

しかし、実際に高額の高額宝くじに当選して、人は巨額の“不労所得”を一瞬で手に入れても、生活レベルを変えないことなどできるだろうか。

## つづき

A子さんは、宝くじが当たるまでは、手取りで毎月25万円程度のお給料をやりくりして堅実に暮らしていたそうです。ところが、宝くじに当選したことで、それまで我慢してきた欲求が一気に爆発。ブランド物のバッグや靴、時計、洋服を買いまくり、高級レストランや海外旅行にも行きまくって、それまでとは真逆な派手な生活を送るようになってしまったとのことでした。

また、宝くじが当たったことで、金融機関をはじめ、買い物にいく先々でVIP対応を受けるようになり、高額な金融商品やジュエリー、高級マンション、などを買ってしまいました。相談シートの資産の欄には3億円と書いてありましたが、実のところ、相談に来た時点では半分程度になってしまっていたのです。

A子さんは、宝くじに当選したことを父母と兄、仲が良かった友だちに打ち明けたそうです。人がいいので、隠すことなどできなかつたのでしょう。その結果、3億円で周囲の人たちが吸い寄せられ、A子さんをちやほやするようになったそうです。

そんな「お姫様」のような扱いにA子さん自身も次第に慣れてしまい、徐々に友人や家族に高飛車な態度をとるようになってしまったそうです。すると、それまでA子さんをちやほやしていた人たちも手のひらを返すように離れていき、大切な友人とも疎遠になり、ついには家族からも孤立してしまったようです。

A子さんは精神的に追い詰められて仕事にも身が入らず、会社を休みがちになっていきました。せっかく夢の一獲千金を実現したのに、気がつけば、友人も家族も失い、仕事も失いそうでした。

実は、このような不幸に見舞われないために、当選金の支払いを担当する銀行では、1000万円以上の高額当選者に対して、無料で『その日から読む本』という冊子を配布しています。

この本には、高額当選した場合の具体的なアドバイスが書かれています。例えば、当選金の使い道について、「ローンや借金の返済を優先すること」「当選について知らせる人をリストアップすること」「仕事は辞めないようにすること」やその他、遺言書の作成や専門家に相談することなどを勧めています。

こういう冊子が配られること自体、大金が当たって舞い上がってしまい、身を滅ぼすケースが多いことを示していると言えます。

他にNBA選手について、平均年俸約5億円、生涯獲得賃金約26億4千万円ですが、50歳になるまでには90%が自己破産するとのこと。

出典；金山 一恵「人生100年のマネー相談」

## 資料；メキシコの漁師町でのあるお話(2枚)

メキシコのある小さな田舎町の漁港。漁師が網に数匹の魚を捕って舟から上がってきました。

それを見た通りがかりのアメリカ人旅行者から、「素晴らしい魚だね、どのくらい漁をしていたの？」と聞かれると、漁師は「そんな長い時間じゃないよ」答えました。

すると旅行者は、「惜しいなあ、もっと漁をしていたら、もっとたくさん魚が獲れただろうに」と言うと、漁師は自分と自分の家族が食べるにはこれで十分だと答えた。

「それじゃあ、余った時間で一体何をするの？」と旅行者が尋ねると漁師は、「日が高くなるまでゆっくり寝て、それから漁に出る。戻ってきたら子供と遊んで、女房と昼寝して、夜になったら友人と一杯やって、歌をうたって、ああこれでもう一日終わりだね」

すると旅行者は真面目な顔をしてこう話した。  
「私は、アメリカトップ企業の経済アドバイザーだ。君に良いことを教えよう。いいかい、君は毎日もっと長い時間漁をするべきだ。それで余った魚は売る。お金が貯まったらもっと大きな船を買って儲けを増やす。

そして自前の水産会社を立ち上げるんだ。その頃には、この田舎町を出てアメリカに進出する。君は社長になって会社の指揮を取るんだ」

漁師は尋ねた。「そうなるまでどのくらいかかるのかね」

「25年もあればそこまでいけるね」

「それからどうなるの？」

「それからだって？そのときは本当にすごいことになるよ」

旅行者はにんまり笑い「君はたくさんのお金を持って田舎町に住み、日が高くなるまでゆっくり寝て、日中は釣りをしたり昼寝をしたり、子供と遊んだり、夜になったら友人と一杯やって、歌をうたって過ごすんだ、

どうだ素晴らしいだろう」

# 「問い」

「原価20円で印刷された1万円札という紙切れに1万円の価値があるわけがありません。

それなのに、たかが20円の価値しかない1万円札に対して、なぜ私たちは価値を感じるのでしょうか？

# 「お金」に感じる価値について

1万円という紙切れには価値がなくても、そこに反映されている「感謝の気持ち」にこそ1万円の価値があるということです。

もちろん「感謝の気持ち」の表れは、お金だけではありません。「言葉」「態度」「いいねの数」「尊敬」「信頼」「信用」「人望」「名声」などいろいろな形で表現されます。

では、人はどんなときに、感謝の気持ちを感じるのでしょうか。それは、抱えている悩みの解決や願望の実現を手伝ってもらったときです。悩みが大きければ大きいほど、願望が強ければ強いほど、感謝の気持ちとしてのお金をたくさん払ってもよいと、人は感じます。

ここから、お金を稼ぐコツも見えてきます。お仕事として、誰かの大きな悩みの解決や大きな願望実現を手伝ったり、小さな悩みの解決や小さな願望の実現をたくさんお手伝いできれば、感謝の気持ちとしてのお金をたくさんもらえるということです。

お金を稼げる人が知っている「お金の本質」とは？ 坂下 仁

# 「問い」

「お金」というものがこの世に存在することで、  
逆にデメリットになることはありますか？

## 【読み物 資料】 「お金」のシステムがもたらす光と影

お金というシステムを取り入れたことで世界中の人たちとモノを売り買いするようになり、社会は広がった面もあるが、そこに仲間意識のような実感は伴わない。

支え合っていると実感できる仲間の範囲は逆に狭くなったように感じる。

昔は人々が助け合っていた。助け合わなければ生きていけなかった。社会に手触りがあった。自分たちのために働いてくれたことが十分感じられた。子供のうちから自分も働く大人になりたいと思っていた。

ところが現実は違った。子供の頃に思い描いた大人にはなれずにお金の魔力に取り憑かれてしまった。

失敗しながら気づいたこと。儲けること自体を目的にしたら会社は長続きしない。会社が長続きできるのは、社会の役に立っているから。

どら焼きを200円で手に入れたとを感じるか、菓子屋のおばちゃんが作ってくれたとを感じる違い。おばちゃんが自分の内側か外側か、自分の意識次第。お金の奴隷になっている人ほどこの範囲が狭くなる。

そうなると、自分の生活を支えるのはお金と違ってしまふ。全てが他人事になり、お金を増やすことしか考えなくなる。

「僕たち」を広く感じられることが大切。その範囲を一番広げられるのは、目的を共有すること、すなわち未来を共有すること。そして、人を愛すること。

お金のために働いていると思っていたときは味方のいない世界で一人で生きている気がしていたが、誰かのために働いているって考えると世界が広がって見える。

## 【読み物 資料】 お金を使うのは投票と同じ！？

消費とは使ってなくすという意味です。お金も使うとなくなるので、お金を使うことを「消費する」、お金を払う人のことを消費者といいます。

選挙権のある人は選挙のときに「この人なら安心して任せられる」と思う政治家に一票を入れて、応援します。これをくり返すことで世の中を少しずつ変えていくのが選挙のしくみです。

私たちの消費、つまり買い物も選挙に似ています。私たちは「この商品よさそう」「このサービスはありがたいな」などと思って、買い物をします。それはその商品やサービスを提供している会社にも一票を入れて応援することと同じです。「いいな」と思うものにお金を使い、「よくないな」と思うものにはお金を使わない、それがくり返されることによって、世の中は少しずつ変わっていくのです。

# 「問い」

これまでに学んだことを総合して

あなたにとって「お金」とは何だと思えますか？

「お金」に対して、どのように向き合って(どのような心構えを持って) いきたいと思えますか？

- **みんなでお金を貯めることは、将来の備えにはならない**
- **お金は移動しているだけで、全体のお金は増減しない**
- **「お金自体は価値がない」「お金で解決できる問題はない」**  
⇒ **「みんなでお金を貯めても意味がない」**
- **過去の蓄積の上に「僕たち」は生活している国が借金したお金は、誰かの財布の中に全体の前金が増えるのは誰かが謝金してるから**
- **世界は贈与でできている**

君のお金は誰のものか 田内 学

- 「働く」とは、お金を稼ぐことではなく、誰かの役に立つこと
- お金によって社会は広がったが、「僕たち」と感じられる範囲は狭くなった
- 目的を共有すれば「僕たち」の範囲は広がる
- 「僕たち」の範囲を一番広げられるのは、未来を共有すること

## 【読み物 資料】 お金をどんどん刷れば良い？

(前略)

「その通りや。お金を払うというのは、自分で解決できない問題を他人にパスしているだけなんや。しかし、僕らはお金を払うことで解決できた気になってしまう」

(中略)

「貿易赤字って、外国にお金が行くのが悪いんでしょ。だったら、お金を印刷しちゃえばいいんじゃないですか」

「おもしろいアイデアやな。せやけど、問題は国内にある日本円が足りなくなることやない。外国が日本円を大量に持つことや」

君のお金は誰のものか 田内 学

# 參考資料

## 【実話】宝くじが当たって150億円を手に入れた男性の末路

ジャックが賞金を手にしてから2年も経たないうちに、ジャックの孫娘が死んでいるのが発見された（薬物の過剰摂取によるものと見られている）。妻とは疎遠になり、ジャックはギャンブルや娼婦に湯水のごとく金を使った。結局、賞金はすべてなくなった。

「なんだ、宝くじの当選者が道を踏み外したというよくある話か」と思ったかもしれない。だが、ジャックのケースは少しばかり話が違う——彼は、すでに金持ちだったのだ。

そう、人生を変える宝くじを買う前から、ジャックには1700万ドル以上の資産があった。ウェストバージニア州の請負会社社長として事業で大きな成功を収め、すでに多額の報酬を得ていた。

このエピソードを紹介したのは、十分な良心、経歴、分別のある人でさえ、お金で人生を破綻させることがあると伝えたかったからだ。

ニック・マジャーリ

## 【実話】宝くじが当たって150億円を手に入れた男性の末路

ジャック・ウィテカーは悪い人間ではなかった。妻と孫娘を愛していたし、宝くじに当選した直後に、非営利財団の設立資金として数千万ドルも寄付していたくらいだ。

それでも、誘惑には勝てなかった。お金にはこれほどまでに、人を変えてしまう魔力がある。

皮肉にも、ジャックがすでに自分が十分に裕福だと気づいていたなら、こんなことにはならなかっただろう。ジャックは自分のことを金持ちではないと思っていた。なぜそれがわかるか？

1700万ドルもの資産を持っていたのに、宝くじを買っていたからだ。ジャックは人一倍貪欲な男だったといえるのかもしれない。だが私は自身の経験から、人は自分の豊かさに気づくのが困難なことを知っている。

# 「お金」に関する3つの「謎」

- 1 「お金」自体に価値はあるか？
- 2 「お金」で解決できない問題はあるか？  
あるとすれば、それはどんな問題か？
- 3 みんなで「お金」を貯めることにどんな意味があるか？

## 【読み物 資料】 世界は贈与でできている

宮崎県在住の40代読者・Yさんは、複雑な家庭環境で育ち、幼いころは辛い日々を過ごしていたという。

そんな彼女の心の支えになったのは、小学生の時に泣き叫ぶ彼女に声をかけてくれた、母親ほどの年齢の女性の存在だった。

Yさんはその人に、感謝の気持ちを伝えたいと考えている。

### <Yさんの体験談>

小学生時代の私は他人とのコミュニケーションが全くできなくて、人一倍無口で大人しく、友達もいない日々を送っていました。

学校へ向かう登校班はあるものの、帰りはいつも一人。その日も、放課後一人で帰宅していました。

大好きな空想をしながら、下を向き歩いていると、地面へダイブするように、思いきり顔から転倒。突然の出来事で動けず、座り込んだままに。顔が痛いと思って手でおでこを触ろうとした瞬間、ぬるっとしたものが鼻のあたりを流れました。鼻血です。

膝も痛かったのを見ると、すりむいて血が出ていました。出血量もとても多かったと記憶しています。

下校中に転んでけがをして...私は声を張り上げ、泣き叫びました。

すると、目の前にあった家から女性がでてきました。玄関に招き入れられて... 「あらら、どうしたの？ 大変！ こちらへいらっしやい」私が怪我をしていることに気付くと、女性は私を玄関に招き入れ、そこに座らせました。

そしてお湯を張った洗面器やタオル、消毒液、脱脂綿などを持ってきてくれて、私の顔を何度も丁寧に拭き、鼻血が止まるまで詰め物を何度も替えて、大きくすりむいて出血もある膝も処置してくれたのでした。時間にすると、1時間程だったと思います。

私は血まみれでしたから、玄関は血で汚れてしまっていました。とんでもないことをしてしまった。そんな思いで頭がいっぱいになりました。家族に言えないまま、数十年が過ぎ... というのも当時、両親は不在がちで、私の面倒を見てくれていたのは、それはそれは厳しい祖母でした。

だから、こんなことをして帰宅したら叱責される、と思ったのです。私はお礼も言えないまま、泣きながらその家を去りました。手当をしてくれた女性は、私を心配そうに見送ってくれましたが、私はその日あった出来事を家族に言う事ができませんでした。

心配してくれた女性にお礼も言えず、中学生になり、一人でお礼を言いに女性のお家へ参りましたが、何度うかがってもご不在でした。あの時、一言でも家族に伝え一緒にお礼を伝えに行っていたら、と結婚して地元をはなれ40代になった今でも時々思い出します。

複雑な家庭環境で精神的につらい幼少期でしたが、母親くらいの年齢の見知らぬ女性に親切にしてもらえた経験が、その後の私の心の支えになっていました。

あなたのお陰で私は少しだけ前を向くことができました。  
本当に、ありがとうございました！

# 「問い」

今後、日本の年金額は徐々に減少することが予想される。そのために、みんなでお金を貯めておくことが大切だと思われる。

しかし、みんなでお金を貯めるだけでは、問題は解決しないのではないかという指摘がある。

なぜだろうか？理由として考えられることをあげよ